

Nacla

December 17, 2021

「コスタリカ：危機に瀕する民主主義」

Costa Rica: A Democracy on the Brink

<https://nacla.org/news/2021/12/17/costa-rica-elections>

著者 Iván Molina : the Centro de Investigación en Identidad y Cultura Latinoamericanas

## リード

コスタリカの 2022 年の選挙が行われる。

格差と不平等はますます広がり、有権者の不満が高まっている。その結果、大統領候補の数は記録的なものとなりそうだ。

しかし候補者の顔ぶれを見ると、この選挙はさらなる不平等を呼びかねない危険を内包している。

.....

### 1. 選挙を前にしたコスタリカの社会状況

2018 年の大統領選挙は思いがけず宗教的色彩の強いものとなった。

それから 4 年、さらに社会の不確実性が高まるなかで、22 年 2 月 6 日に、大統領と立法議会議員 57 人の選挙が行われる。

4 年前の選挙以来、野卑なネオリベ、コロナ大流行、それに引き続く景気後退が相次いだ。それらは失業率を記録的なレベルに押し上げ、不平等を悪化させ、国の長期にわたる債務危機を激化した。

2018年と2019年には、税制改悪と労働組合法に対する抗議が国を震撼させた。そして2020年には、国際通貨基金からの融資をめざす政府の計画が明らかになり、新たな不安を引き起こした。

2022年選挙を前にしたコスタリカは、2019年の社会的暴動の前のチリにますます似て来た。

## 2. 何がコスタリカに政治危機をもたらしたのか

パンデミックだけが、コスタリカの民主主義に危機をもたらせたわけではない。何年にもわたる新自由主義による社会の細分化と政治分野の再構成は、選挙の場をアノミー化してきた。

その結果、左派の政治家は労働者階級からほとんど切り離されてしまった。政党は信条を放棄し、投票率の低下と相まって政治地図の激変をもたらしている。

このふたつの傾向は、社会の不平等と市民の不満によって増幅され、この国に深い亀裂を生んでいる。

2022年の選挙は、このような社会の思想的後退を背景に、強力な親財界グループが進出する可能性がある。それは結果的に、2018年型の政治体制の維持に繋がるだろう。

## 3. 二大政党制の半世紀

1948年に内戦が起きた後、2つの政治勢力がコスタリカを支配した。国民解放党（PLN）とその反対派である。

1978年まで政権を握った PLN は、共産主義を封じ込めることを最大目標とし

た。そのために国家の介入を増やし、一方で社会投資と所得の再分配を促進した。PLN は、民間の組合運動、特に共産党主導の運動を弾圧する一方で、公務員の反共御用組合を奨励した。

反 PLN 派は、古いコーヒー寡頭制の利益を代表する政治家で構成されている。彼らは国家の介入に反対し、市場の規制緩和を擁護した。

1976 年に反 PLN 派の政党は統一連合（Coalición Unidad）を組織した。それは 1983 年にキリスト教社会統一党（Partido Unidad Social Cristiana）統一された。その略称をとって PUSC と呼ばれる。

この後、コスタリカは 2 つの保守政党が二大政党制システムを構築する。1986 年から 1994 年までの選挙では、PLN と PUSC をあわせた票が有効投票の 97%以上を占めた。

1982 年、深刻な経済危機の中で反 PLN 連合政権が破綻し、PLN がふたたび権力を握った。PLN は疲弊した国民生活を立て直すことが期待された。

しかし IMF・世界銀行、レーガン政権からの圧力を受けた PLN 政府は、債務返済を至上目的とするネオリベラリズム政策をとり始めた。PLN はだんだん PUSC と違わなくなっていく。そして 1990 年に PUSC に敗れた。

#### 4. PLN の右転換が政治不信を誘う

党内危機の進展により、1994 年の選挙では重大な変化が起こった。PLN の大統領候補であり、党創設者の故フィゲレスの息子ホセ・マリア・フィゲレスが、**新自由主義の拒否**を宣言するに至ったのである。

それは欺瞞であり、フィゲレスが勝利するための戦術でしかなかった。

それがフィゲレス当選のあと、まもなく証明された。彼は PUSC のカルデロン前大統領と協定を結び、新自由主義を推進することで一致した。

その経済政策は広範な一般大衆の抗議に直面した。彼は暴力的な弾圧で応えた。その結果、PLN とその支持者の間に相互不信と深い亀裂が形成された。

フィゲレスのついたウソの犠牲は莫大だった。1998 年と 2002 年には 2 回続けて大統領選挙に敗れた。PLN が後退しただけではなく、民主主義が後退した。人々は投票所に行かなくなった。総選挙の投票率は、1982 年の約 81% から 1998 年には 70% に低下した。

さらに両党の元大統領が関与した汚職スキャンダルを受けて、2006 年に行われた選挙では、投票率は 65.2% に低下した。両党の得票は、あわせてもわずか 44.5 パーセントだった。